

## ピアノ初学者の個人練習の組み立て

Composition of a piano beginner's self-study

田中功一(立教女学院短期大学)、小倉隆一郎(文教大学)、辻 靖彦(放送大学)  
Kouichi TANAKA(St. Margaret's Junior College), Ryuichiro OGURA(BUNKYO UNIVERSITY),  
Yasuhiko TSUJI(The Open University of Japan)

(キーワード)

ピアノ個人練習、練習時間、演奏分析、見える化、練習方略

### 1. はじめに

#### (1) 個人練習の時間

保育士・教員養成校等において、ピアノ学習経験のない学生(以下、「初学者」とする)に対していかにピアノ演奏技能を習得させるか、その指導方法の工夫が課題となっている。

初学者の割合は、筆者の一人が所属する立教女学院短期大学においても直近の5年間では全体の30~40%であり、多くの学生はピアノの必要性を感じている。初学者の練習時間は週に1~3回程度で一回30分程度というケースが多くみられる。このような少ない練習時間の中で、初学者はどのような手順で練習を進めているのか。特に30分間程度の練習の実態の把握と内容の解明が必要と考える。

#### (2) 目的

本研究では、初学者が30分程度の個人練習をどのように組み立てているのか解明するために、初学者の個人練習の演奏収録とインタビュー調査を行う。インタビュー調査を通じて初学者の練習状況を把握し、個人練習の組み立てを把握することを目的とする。このことが初学者の個人練習の方略を検討する上で重要と考えられる。

本報告では初学者の個人練習において、1)音データの視覚化による状況の把握、2)教員による初学者の演奏の聴取、3)練習後のインタビューによる練習

の意図及び目的の把握、以上を総合してピアノ初学者の個人練習の状況を客観的に把握することにより、初学者にとって有効な個人練習方法の確立を目指す。

### 2. 方法

以下の通り実験を実施した。

- 1)被験者：立教女学院短期大学専攻科学生1名。
- 2)被験者の学習経験：2年前の短大入学時はピアノ学習経験のない初学者。2年前に筆者らが開発したVSPP、及びPLPによる学習に参加した。その後、今回の収録までピアノの学習はしていない。
- 3)実施日時  
練習収録：2019.7/3(水)13:00~13:30  
インタビュー：2019.8/8(木)11:00~11:45
- 4)練習収録場所：立教女学院短大 田中研究室
- 5)使用楽器：YAMAHA YDP162 (ヘッドフォン着用)
- 6)収録ツール：DAWフリーソフト REAPER ver.0.999
- 7)練習課題と練習方法：Beyer No.104 (当日提示)の楽譜を提示してVSPPを使用せずに個人練習を行う。なお、2年2ヵ月前(2017年5月)にVSPPを使用してこの課題を学習している。
- 8)インタビュー：半構造化面接。

実験は練習課題譜をピアノの譜面台に置き、個人練習を自宅で30分間実施する想定で、30分間の収録を開始した。後日、インタビューを実施した。

### 3. 結果

#### 1) 音データの視覚化による状況把握

30分間全体の練習の様子を MIDI データを用いてシーケンサー画面で見ると、開始から20分付近まで右手の練習を進め、その後残り10分間で両手練習を進めている。冒頭の0~10分間は細かな部分練習を繰り返している。練習最後の10分間は楽譜と音との関連性が読み取れないため、練習が混乱している状況が推察される。この状況から集中力が欠如した可能性もうかがえる。30分間全体をみるとデータの模様は断片的に見えるため、数小節単位で連続して弾ける状態には至っていないことが推察される。

#### 2) 教員による聴取から

録音を聴くと1小節単位で間違えながら右手の部分練習を繰り返している。30分間全体を聴くと、同じ間違えを何度も繰り返しており、混乱して進んでいる様子もうかがえる。楽譜の音を把握してから鍵盤を弾くという手順に戸惑っているためか、一音単位での弾き直しが多く聞かれた。

#### 3) インタビューによる練習の意図及び目的の把握

練習録音を聞きながら練習順序、練習の組み立てについて質問したところ、「最初に右手の練習をして感覚をつかみ、左手の練習を進めたかった」と回答した。実際には右手の練習が思うように進まなかったため左手の練習は最後の10分間のみになっている。また、練習方法の問いでは、「以前経験したVSPPのフィードバックではテンポが速くなってしまいう傾向があるためゆっくり練習するように心がけている」と回答していることから、練習のテンポについて注意して進めたいという気持ちが読み取れる。うまくできたと感じたところの問いでは、「片手練習をした後、両手でリズムがうまく合ったとき」と回答していることから、両手で合わせることに苦労している様子が推察される。練習中に教員の指導を受けたいと思う場面があったかの問いでは、16分音符の音階の場面で2年前に経験した模範演奏動画を見たかったと回答した。これより、動画により音楽のイメージを得たいという心理状況が推察され、楽

譜から音楽をイメージするのが困難な様子が推察された。また、「演奏が分からなくなった時にピンポイントでそこを教えてほしい」と回答していることから、数秒程度の短い動画を提示すると効果的な可能性もうかがえる。30分の練習を終えた時の気持ちについての問いでは、「むなしく、ちょっと残念な気持ちで徐々に練習してここまで自分は落ちたのか2年前の方がもっと弾けてたのに」と回答していることから、このような初学者に対しては個人練習の組み立てを細かく提示することにより、むなしい気持ちに陥らないように配慮する必要があると考えられる。最後に、今日の感想についての問いでは、「もう少し練習に慣れてきたら練習方法も変わると思う」と回答していることから、初学者においては個人練習のやり方自体が曖昧であり、教員が学習者のレベルやタイプに合わせて具体的な練習方法を提示する手法も検討する必要性もうかがえる。

### 4. 考察

2年前にVSPPを活用した学習環境は正規授業の支援を目的とし、その方法はPLPの仕組みにより教員が立ち会う補講であった。よってそのカリキュラムの構築は教員が行った。今回の実験では、教員から内容の教示は行わずに30分の個人練習を学習者独りに自由に行わせた。そのため、練習の組み立てが思うように進められなかったと考えられる。2年前に弾けた曲であったにも関わらず、今回は弾き直しながら行った30分の練習全体が混乱したためにインタビューでは、むなしく、ちょっと残念な気持ち、と回答するに至ったと考えられる。混乱した理由として、課題の演奏イメージが最後まで得られなかったことが考えられる。このような初学者では個人練習の冒頭に動画再生などにより演奏イメージを思い出させる支援が有効だった可能性が窺える。このことは読譜力が欠如していることにも起因しており、その解決方法として、個人練習の組み立てを詳細に提示する必要があると重要と考えられる。具体的には、動画と楽譜の数小節単位での提示が効果的と考えられる。